

# ESG要素を考慮した事業性評価の取組み

## <ツールの開発と活用>

尼崎信用金庫 価値創造事業部 部長  
兼 法人ソリューショングループ長  
田中 直也

# 目次

- 1 当金庫の概要
- 2 当金庫の事業性評価及びSDGs・ESGへのこれまでの取り組み
- 3 当金庫のお取引先企業
- 4 ESG要素を考慮した事業性評価・支援体制の構築のきっかけ
- 5 ESG要素を考慮した事業性評価の研究過程
- 6 考案した事業性評価ツール
- 7 ESG要素を考慮した事業性評価に基づく伴走支援体制
- 8-① 選択式設問シート
- 8-② ESG要素を考慮したローカルベンチマーク
- 8-③ ESG事業性評価シート
- 9 今後のビジョン

# 1. 当金庫の概要（2023年3月末現在）

創 業 : 1921年（大正10年）6月6日

本店所在地 : 兵庫県尼崎市

店 舗 数 : 90店舗（うち出張所4）

預 金 量 : 2兆7,532億円

融 資 量 : 1兆3,196億円

出 資 金 : 142億円

会 員 数 : 130,847人

常勤役職員数 : 1,343人



# 1. 当金庫の概要

当金庫では、創業以来「地域社会への貢献」を経営の基本方針に掲げ、地域経済の活性化と持続的な発展、魅力ある地域社会づくり、環境保全の永続的な取組など、地域社会の発展を常に考えた事業活動に取り組んでいます。

## コンサルティング 機能の発揮

「事業性評価」の目線で  
創業支援から事業承継まで、  
あらゆる経営課題に最適な  
ソリューションをご提案

## 地域貢献活動

「本業のひとつ」と考え  
環境・安全・教育・文化  
などの活動に全役職員が  
一丸となって取組む

あましんビジネスモデルの2本柱

 **尼崎信用金庫**

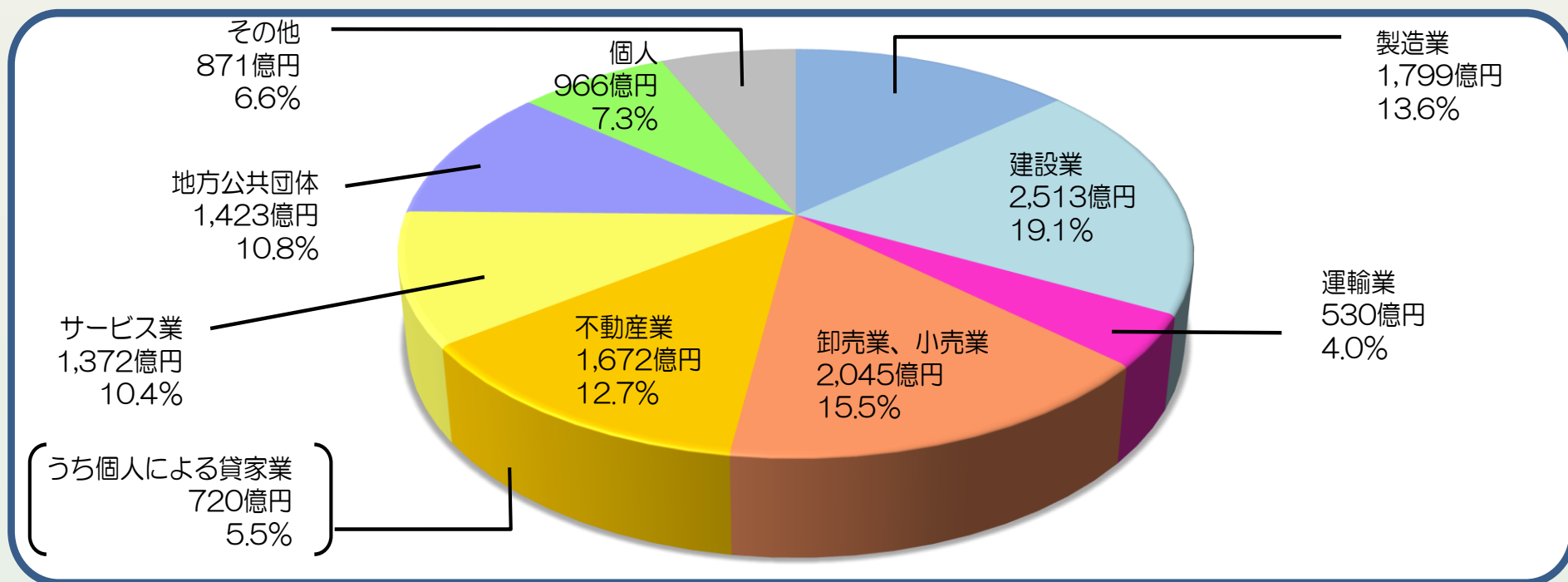
## 2. 当金庫の事業性評価及びSDGs・ESGへのこれまでの取組み

事業性評価	SDGs・ESG
2001年7月 「業種別審査スペシャリスト制度」を開始	
2004年1月 「あまがさき技術サポート融資制度」の創設	
2005年6月 兵庫県へ提言し、「ひょうご中小企業技術評価制度」発足	2010年3月 「尼崎21世紀の森づくり」に参画する「あましん緑のプロジェクト」活動を開始
2010年9月 「知的資産経営報告書」作成セミナーを開催	2010年10月 「尼崎21世紀の森あましん植樹祭」を開催
2010年12月 経営改善支援担当者養成及び「経営支援アドバイザー」のライセンス付与	2010年11月 「ECO未来都市・尼崎」共同宣言に参画
	2010年12月 「あましん緑のプロジェクト」苗木の里親コーナー設置及び苗木の里親募集開始
2014年9月 「知財金融促進事業」の知財ビジネス評価書の活用開始	2010年12月 本部棟空調熱源設備を更改し年間153トンのCO2削減を図る
	2011年1月 新型リフォームローン「エコの達人」をはじめとした各種ローンの創設
2017年11月 ひょうご信用創生アワード改善部門にて事業者支援の取組が評価され最優秀賞を受賞	2011年7月 「あましんグリーンプレミアム」を創設
	2011年10月 「尼崎21世紀の森 尼信植樹祭」を開催
2018年10月 「技術・経営力評価制度（大阪版）」の取扱い開始	2012年6月 尼崎21世紀の森除草活動開始
	2014年7月 一般社団法人グリーンファイナンス推進機構に職員出向
2018年11月 ひょうご信用創生アワード創業部門にて事業者支援の取組が評価され最優秀賞を受賞	2019年10月 あましんSDGs宣言を表明／「SDGs応援融資」取扱開始
2019年11月 ひょうご信用創生アワード創業部門にて事業者支援の取組が評価され最優秀賞を受賞	
2022年1月 若手職員を対象に「ローカルベンチマーク」の研修を実施	2021年12月 東京海上日動火災保険㈱と「お取引先へSDGsを普及・促進するための連携協定」を締結
2022年4月 取引先の課題解決を支援する新サービスとして「技術・経営力評価サポートプラス」並びに「課題抽出・サポートプログラム」の取扱を開始	2022年4月 神戸大学とのESG共同研究開始
	2022年7月 「あましんSDGs」サービスパッケージ創設
2023年1月 兵庫県地域支援金融会議主催「伴走支援グット・プラクティス発表会」にて当金庫支援事例が好事例に選出	2022年11月 一般財団法人 持続性推進機構と包括連携を締結
2023年3月 大阪府主催【新事業支援-Vチャレンジ-】のイベントで事業者支援の取組を発表	
2023年3月 ESG要素を考慮した事業性評価ツール作成	2023年4月 TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言への賛同及び開示

### 3. 当金庫のお取引先企業

融資ご利用のお取引先企業につきましては、全業種バランスよくお取引頂いております。お取引先には積極的に事業性評価を活用した課題解決型コンサルティング活動を行っております。

(計数は2023年3月末現在)



## 4. ESG要素を考慮した事業性評価・支援体制の構築のきっかけ

### 【事業性評価・伴走支援に強み】

当金庫は以前から事業性評価を通じた課題抽出ソリューションを積極的に行っており、伴走支援を強みとしています。

### 【環境への取組み】

当金庫は従前より、「あましんグリーンプレミアム」をはじめ環境分野の取組みに注力してまいりました。

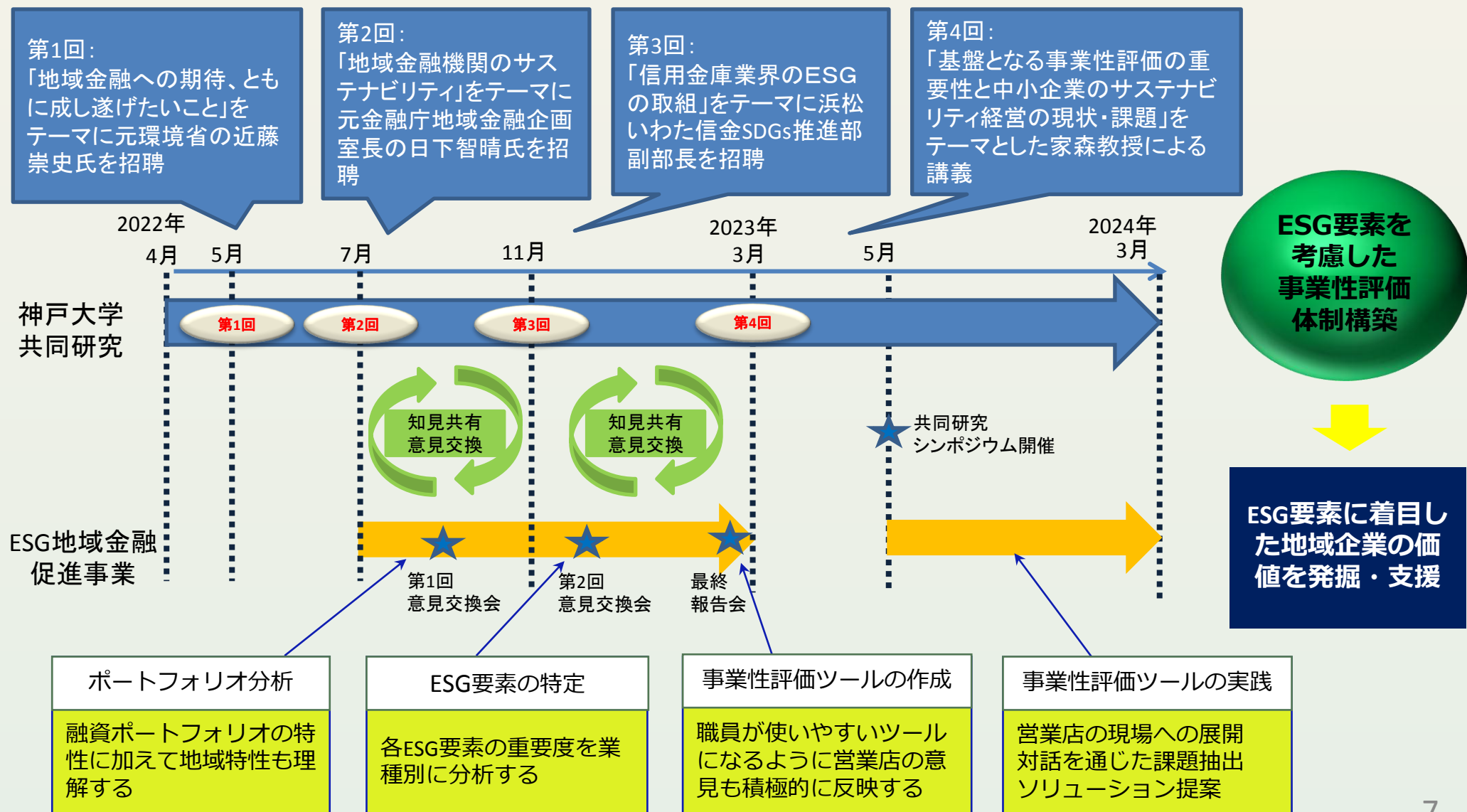
### 【業種に偏りの少ない融資ポートフォリオ】

当金庫のお取引先は特定の産業への偏りがなく、それ故に様々なESG要素が中長期的なリスク・機会の両面でお取引先へ影響を及ぼす可能性があります。

### 【取組みの必要性の認識】

一方でESGの観点での評価は実施しておらず、当該分野の伴走支援ソリューションを強化していく必要を感じていました。

# 5. ESG要素を考慮した事業性評価の研究過程

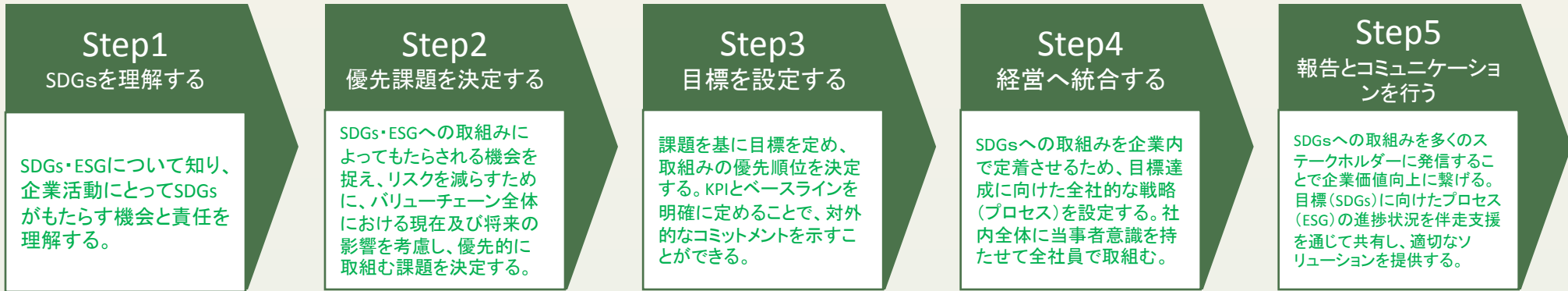




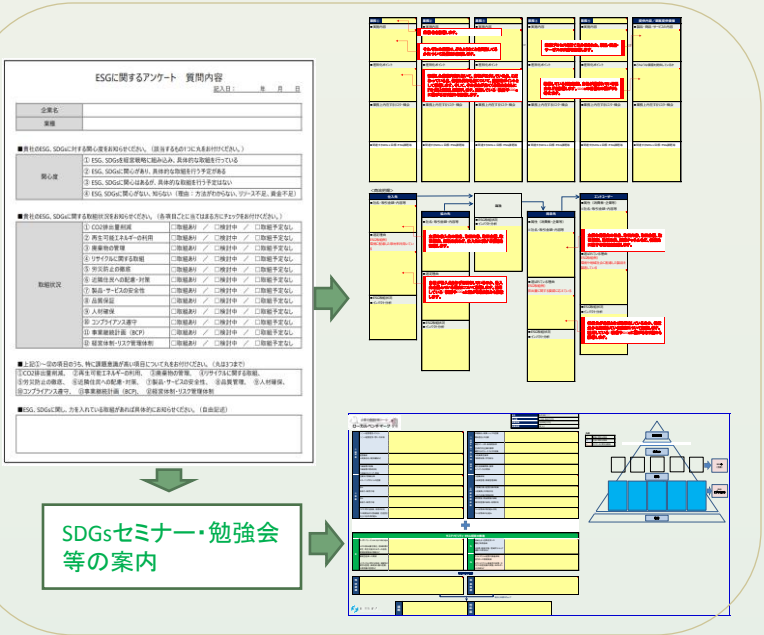
## 6. 考案した事業性評価ツール

	①選択式設問シート	②ESG要素を考慮したローカルベンチマーク	③事業性評価シート
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業のESGに関する関心度、課題意識、取組状況を簡便に把握する</li> <li>ESG目線での対話のきっかけづくり</li> <li>ヒアリング結果から地区や産業特性等を分析し、今後のソリューションに活用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バックカスティングの発想で長期的なビジョンを描けるよう支援する</li> <li>営業職員のESGに関する対話ノウハウの蓄積</li> <li>SDGsパッケージへのアプローチツールとして活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各企業のESG分野に関する取組を詳細かつ具体的に評価する</li> <li>地域へのインパクトという観点から評価を実施する</li> <li>SDGs宣言目標を経営に統合(戦略へ落とし込み)する</li> <li>ESG課題の解決に向けた伴走支援ツールとして活用</li> </ul>
実施形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート形式</li> <li>企業に配布し回答・提出いただく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存のロカベンヒアリングの際に、ESGに関する対話を追加で実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員がヒアリングを実施し、ヒアリングで集めた情報を元に職員が記入</li> </ul>
対象企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>全企業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話を通じて事業性評価する先</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsサービスパッケージ申込先</li> <li>ESGの取組に特に意欲的な企業</li> </ul>
庫内体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業店職員: 配布、ヒアリング</li> <li>本部職員: 結果の集計および分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常のローカルベンチマークの運用と同様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業店職員: ヒアリング、記入</li> <li>本部職員: フィードバック、ソリューション提案、ヒアリング補助</li> </ul>

# 7. ESG要素を考慮した事業性評価に基づく伴走支援体制



## ESGに関するアンケート／ ESG要素を踏まえたローカルベンチマーク



## あましんSDGsパッケージによる目標設定



## 目標に向けた戦略（プロセス）を設定



# 8-① 選択式設問シート

- 企業のESGに関する関心度、課題意識、取組状況を簡便に把握する
- ESG目線での対話のきっかけづくり
- ヒアリング結果から地区や産業特性等を分析し、今後のソリューションに活用する

## ESGに関するアンケート 質問内容

記入日： 年 月 日

企業名	
業種	

■ 貴社のESG、SDGsに対する関心度をお知らせください。（該当するもの1つに丸をお付けください。）

関心度	① ESG、SDGsを経営戦略に組み込み、具体的な取組を行っている
	② ESG、SDGsに関心があり、具体的な取組を行う予定がある
	③ ESG、SDGsに関心はあるが、具体的な取組を行う予定はない
	④ ESG、SDGsに関心がない、知らない（理由：方法がわからない、リソース不足、資金不足）

■ 貴社のESG、SDGsに関する取組状況をお知らせください。（各項目ごとに当てはまる方にチェックをお付けください。）

取組状況	① CO2排出量削減	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	② 再生可能エネルギーの利用	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	③ 廃棄物の管理	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	④ リサイクルに関する取組	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	⑤ 労災防止の徹底	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	⑥ 近隣住民への配慮・対策	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	⑦ 製品・サービスの安全性	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	⑧ 品質保証	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	⑨ 人材確保	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	⑩ コンプライアンス遵守	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	⑪ 事業継続計画（BCP）	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし
	⑫ 経営体制・リスク管理体制	<input type="checkbox"/> 取組あり	<input type="checkbox"/> 検討中	<input type="checkbox"/> 取組予定なし

■ 上記①～⑫の項目のうち、特に課題意識が高い項目について丸をお付けください。（丸は3つまで）

①CO2排出量削減、 ②再生可能エネルギーの利用、 ③廃棄物の管理、 ④リサイクルに関する取組、  
⑤労災防止の徹底、 ⑥近隣住民への配慮・対策、 ⑦製品・サービスの安全性、 ⑧品質管理、 ⑨人材確保、  
⑩コンプライアンス遵守、 ⑪事業継続計画（BCP）、 ⑫経営体制・リスク管理体制

■ ESG、SDGsに関し、力を入れている取組があれば具体的にお知らせください。（自由記述）

### 1. 業種の把握

### 2. ESG・SDGs全般に関する関心度

### 3. 具体的なESG要素に関する取組状況（選択式）

各項目は事業性評価シートと整合性を確保

※事業性評価シートの対話のきっかけすることを想定

### 4. 各ESG要素に対する課題意識（選択式）

ESG要素のうち特に課題意識の高い項目を3つ選択

### 5. 具体的なESG要素に関する取組状況（自由記述）

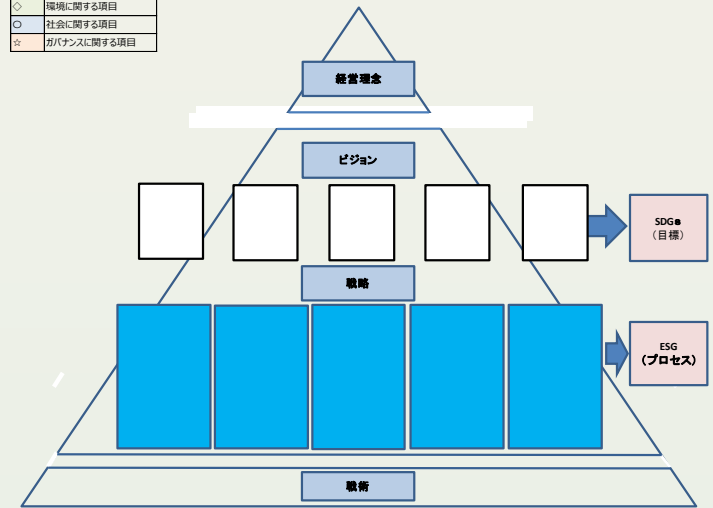
# 8-② ESG要素を考慮したローカルベンチマーク

- バックカスティングの発想で長期的なビジョンを描けるよう支援する
- 営業職員のESGに関する対話ノウハウの蓄積
- SDGsパッケージへのアプローチツールとして活用

① 経営者	○○☆経営理念・ビジョン ○○☆経営哲学・考え・方針等 経営意欲 ※成長志向・現状維持など	③ 企業を取り巻く環境・関係者 市場動向・規模・シェアの把握 競合他社との比較 顧客リピート率・新規開拓率 主な取引先企業の推移 顧客からのフィードバックの有無 ○従業員定着率 ○勤続年数・平均給与 取引金融機関数・推移 メインバンクとの関係			
	○後継者の有無 ○後継者の育成状況 ○承継のタイミング・関係			④ 内部管理体制 ☆組織体制 ☆品質管理・情報管理体制 ☆事業計画・経営計画の有無 ☆従業員との共有状況 ☆社内会議の実施状況 研究開発・商品開発の体制 知的財産権の保有・活用状況	
	企業及び事業沿革 ※ターニングポイントの把握 強み 技術力・販売力等 弱み 技術力・販売力等				

凡例

◇	環境に関する項目
○	社会に関する項目
☆	ガバナンスに関する項目



サステナビリティ・ESG経営の推進		
E	カーボンニュートラルに向けた取り組み ※CO2排出量可視化、削減目標の設定、再生可能エネルギーの活用、環境配慮製品の製造など 循環型経済への貢献	地域社会・近隣住民への貢献/負担低減 ※粉塵、騒音対策、地域ボランティア活動への参加など
	※リサイクルに関する取組、廃棄物の適切な管理、資源投入量の把握、水使用量の管理など	サステナビリティ経営の推進体制 社内外への情報発信 ※サステナビリティ推進室の設置、社内の浸透活動の実施、ESGレポートの作成など

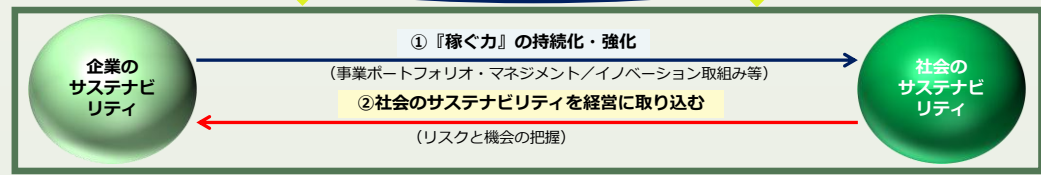
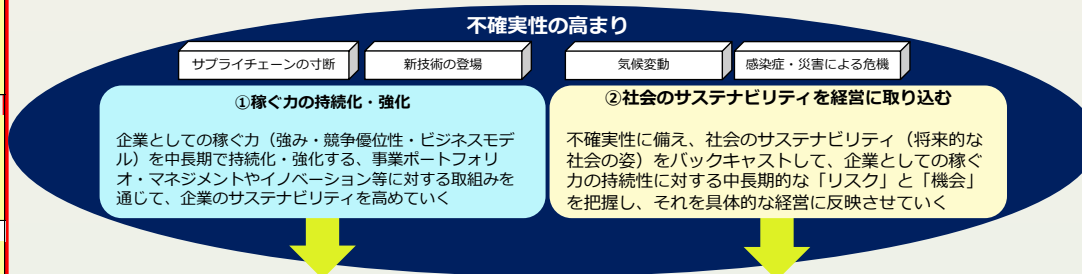
現状認識	対話内容の総括	得た目標	現状と目標のギャップ
------	---------	------	------------

課題	対応策
----	-----

# 8-② ESG要素を考慮したローカルベンチマーク

<製品製造、サービス提供における業務フローと差別化ポイント>

業務①	業務②	業務③	業務④	業務⑤	提供内容/顧客提供価値
■実施内容	■実施内容	■実施内容	■実施内容	■実施内容	■製品・商品・サービスの内容
業務名を記載します。			業務プロセスを経て生み出された、製品・商品・サービスの内容を記載します。		
それぞれの業務で、どのようなことを実施しているかについて具体的に記載します。			提供している付加価値、自らが選ばれている理由などを記載します。SDGsの目標との繋がりも考えます。		
■差別化ポイント	■差別化ポイント	■差別化ポイント	■差別化ポイント	■差別化ポイント	■どのような価値を提供しているか
記載した業務内容において、自らが工夫している点、こだわっている点、他社と異なる点について、差別化ポイントとして記載します。そして、その良さが出てくる理由をさらに『なぜ』と質問し深堀りします。活用しているIT技術やSDGsに繋がる取り組みも記載します。			提供している付加価値、自らが選ばれている理由などを記載します。SDGsの目標との繋がりも考えます。		
■業務上内在するリスク・機会	■業務上内在するリスク・機会	■業務上内在するリスク・機会	■業務上内在するリスク・機会	■業務上内在するリスク・機会	■業務上内在するリスク・機会
■関連するSDGs・目標・ESG課題等	■関連するSDGs・目標・ESG課題等	■関連するSDGs・目標・ESG課題等	■関連するSDGs・目標・ESG課題等	■関連するSDGs・目標・ESG課題等	■関連するSDGs・目標・ESG課題等



<商流把握>

仕入先	当社	エンドユーザー
■社名・取引金額・内容等	■社名・取引金額・内容等	■属性（消費者・企業等） ※社名・取引金額・内容等
■選定理由 ESG取組例） 環境に配慮した原材料を用いている	■ESG取組状況 ■インパクト分析	■選ばれている理由 ESG取組例） 環境や地域社会に配慮した製品を製造している
■ESG取組状況 ■インパクト分析	■ESG取組状況 ■インパクト分析	■選ばれている理由 ESG取組例） 排出量に関する要請に responding
■ESG取組状況 ■インパクト分析	■ESG取組状況 ■インパクト分析	■ESG取組状況 ■インパクト分析

主要な仕入先の社名、取引内容、取引金額、取引頻度、受取方法など、仕入先に関する情報を記載します。

自らが仕入先となぜ取引をしているのか、仕入先を選んでいる理由について記載します。活用しているIT技術やSDGsに繋がる取り組みも記載します。

主要な得意先の社名、取引内容、取引金額、取引頻度、取引方法、販売チャネルなど、得意先に関する情報を記載します。

得意先が自社となぜ取引をしているのか、得意先から選ばれている理由について記載します。活用しているIT技術やSDGsに繋がる取り組みも記載します。



③ 長期の時間軸の「対話」によるレジリエンスの強化  
不確実性が高まる中で企業のサステナビリティを高めていく為に、企業と当金庫が①と②の観点を踏まえた対話を何度も繰り返すことにより、企業の中長期的な価値創造ストーリーを磨き上げ、企業経営のレジリエンスを高めていく

## 8-③ ESG事業性評価シート

- 各企業のESG分野に関する取組を詳細かつ具体的に評価する
- 地域へのインパクトという観点から評価を実施する
- SDGs宣言目標を経営に統合（戦略へ落とし込み）する

実施STEP

実施概要

### STEP1 サプライチェーンの把握

同一業種でもサプライチェーンによって取り組むべきESG課題は異なる可能性がある。まずはお取引先がサプライチェーン上のどこを担っているのか、主要な取引先はどのような企業なのかを把握する。

### STEP2 ESG課題の把握

STEP1を基にお取引先の事業にとって優先度の高いESG課題を「事業への影響度」「地域社会・環境への影響度」から分析する。それら優先度の高い課題に対する企業の“関心度”と“取組状況”をヒアリング等を通じて把握する。それらの情報を基にその企業の持続可能性および課題を分析する。

### STEP3 伴走支援

STEP2で分析した課題とお取引先の関心度・取組状況をもとに当金庫として提供可能な伴走支援策を検討する。

# 8-③ ESG事業性評価シート

## STEP1 サプライチェーン分析

サプライチェーン	調達	設計・製造	組立	販売	廃棄
ESG課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造工程における水使用量の管理</li> <li>資源投入量の可視化</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の再資源化促進</li> <li>使用済み製品のリサイクル促進</li> <li>廃棄物の適切な管理、処理量の可視化</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮製品の製造</li> <li>再生紙の活用</li> <li>サプライチェーンの管理</li> <li>ライフサイクルアセスメントの実施</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量の可視化、削減目標の設定</li> <li>再生可能エネルギーの活用</li> <li>環境マネジメント、環境負荷の算定</li> <li>生物多様性を保全する取組</li> <li>働き方改革の促進、社員のエンゲージメント向上施策の実践</li> <li>ITやDX技術による生産性向上</li> <li>労災防止の徹底</li> <li>積極的な女性、外国人等の採用（ダイバーシティ＆インクルージョンの実践）</li> <li>近隣住民への配慮</li> <li>地域社会貢献に関する取組</li> <li>製品サービスの安全性</li> <li>品質保証</li> <li>法令遵守</li> <li>事業継続計画（BCP）</li> <li>経営体制・リスク管理体制</li> <li>サステナビリティに関する経営体制</li> </ul>				

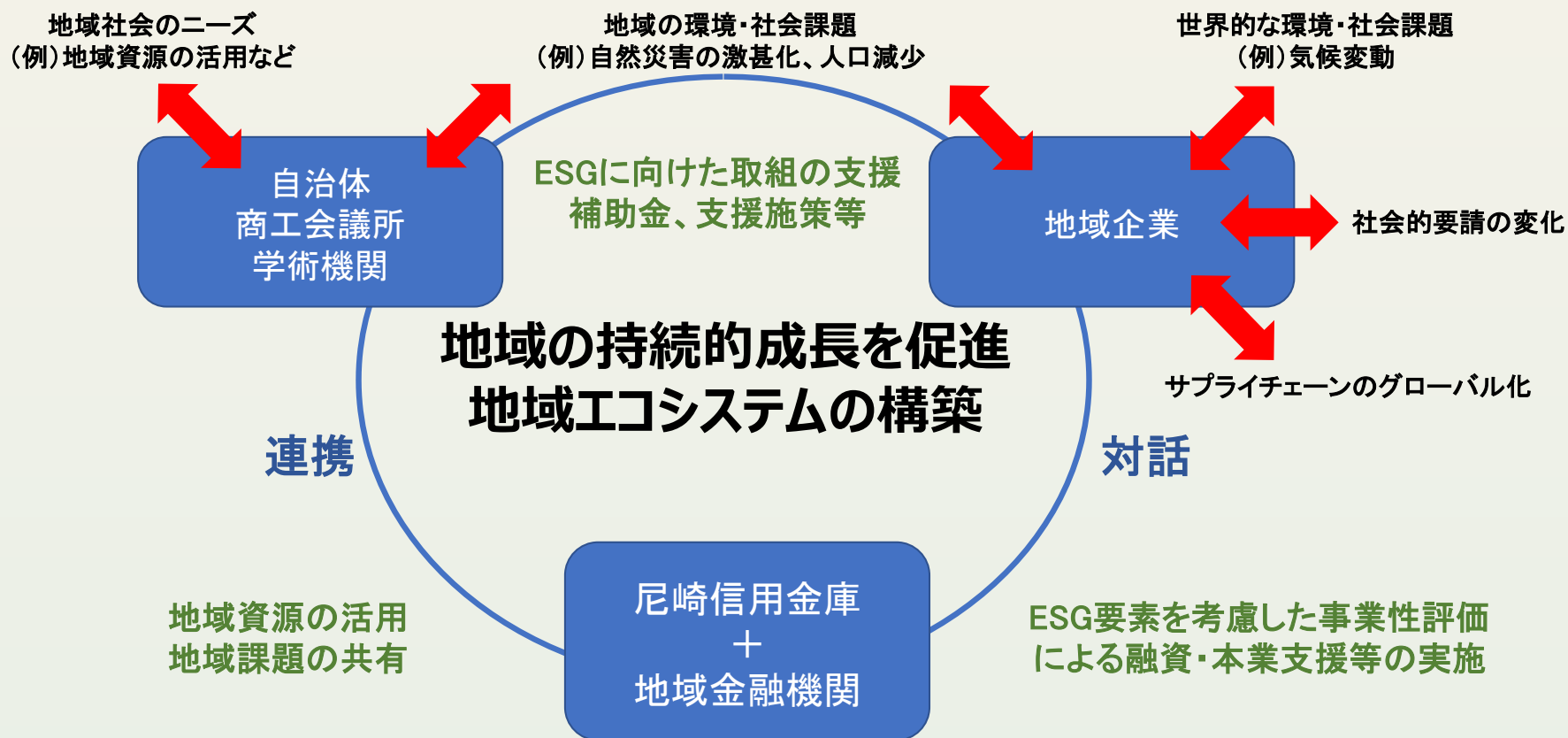
# 8-③ ESG事業性評価シート

## STEP2 ESG課題の把握

観点	ESG課題との関連	項目 重要度	インパクト分析（概要）	関心度の把握	取組状況の把握		課題分析
			※下記は事業の担うサプライチェーンに応じて修正が必要。事業内容や企業の規模によって優先すべき課題は変わる。	事業で設定している目標や重視していることを記載	ステータス	具体的な取組と成果（アウトカム）	左記を踏まえて、課題になりうる部分を記載する。
E	CO2排出量削減	◎	全世界的に気候変動対策、特に脱炭素への取組が加速している。近年は、排出量削減に関して、サプライヤーからの要請を受ける場合もあり、中小企業にとってもリスク・機会になりうる。				
	再生可能エネルギーの利用	◎	再生可能エネルギーの活用や創エネは、CO2排出量削減に繋がる。				
	環境マネジメントシステム	○	ISO14001などの環境マネジメント規格を取得は、企業が持続的に環境に対する取組を推進していく上で重要である。また入札加点対象など、機会獲得に繋がる。				
	環境配慮製品の製造	○	原材料の省資源化や製造工程における省エネ等を達成した環境配慮製品は近年増加している。これらは、環境保全に貢献するという目的が共通している。エシカル消費と呼ばれる環境・社会に優しい商品を積極的に選ぶという消費者も拡大しており、企業の機会に繋がる。				
	水の管理	○	自社の水の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善を行うことは、限りある天然資源である水の有効活用に繋がる。				
	生物多様性	●	生態系や種の多様性などの生物多様性への注目が近年高まっている。これらは、土砂崩れの防止など、人々が持続可能な生活できる環境を守るために非常に重要である。				
	廃棄物の管理	◎	事業者は、資源循環性やクリーンな地域社会実現の観点から、適切に廃棄物の管理を行うことが求められる。				
	リサイクルに関する取組	◎	持続可能な社会を実現するためには、限りある資源を有効活用していくことが重要である。地域コミュニティの持続性を高めるだけでなく、各種認証の取得や企業ブランド向上にも繋がる。				



## 9. 今後のビジョン



自治体や支援機関、金融機関と連携し、ESG要素を考慮した事業性評価・支援を実施することで地域の持続的成長を促進致します。



当金庫内のESG支援体制の整備を進め、ESG要素を考慮した事業性評価・支援手法の精度をあげ、他金融機関・支援機関に横展開（知見共有）し、地域全体でESGへの取組を促進致します。

ご清聴ありがとうございました。